



● NIHON AGRI, INC.

2026年2月5日

鈴与商事株式会社
株式会社日本農業

鈴与商事、日本農業と資本業務提携し青森県でりんご事業に参入

鈴与商事株式会社（本社：静岡市、代表取締役社長：伊藤 正彦、以下「鈴与商事」）は、農業の構造改革を推進する株式会社日本農業（本社：東京都品川区、代表取締役 CEO：内藤 祥平、以下「日本農業」）と資本業務提携し、アグリビジネスの領域拡大の第一歩として、青森県においてりんご事業に参入いたしました。

りんご事業は、鈴与商事の子会社であるベルファーム株式会社（本社：菊川市、代表取締役社長：岡田 典久、以下「ベルファーム」）が担います。

■ 背景と目的

鈴与グループでは、ベルファームにてトマト生産に加え、アスパラガス生産を行ってきました。しかし、温暖化による栽培環境の変化や地域の就農人口減少といった社会課題を踏まえ、持続可能な農業の実現に向けて果樹栽培への事業拡大を検討してきました。

りんごは国内外で需要が安定しており、適地での栽培により安定供給が可能な品目です。青森県はりんご栽培に最適な気候条件を備えていますが、生産者の減少により、2023年から2024年の1年間で栽培面積が400ha減少しています。一方、日本農業は同県でりんご生産・販売を先行して行っており、ノウハウや大規模選果場などのリソースを有しています。

さらに、鈴与グループの航空事業である株式会社フジドリームエアラインズ（FDA）が青森空港に就航しており、グループとして青森地域との結びつきが強いことも、りんご事業参入を後押ししました。こうした背景から、課題解決に向けた新たな取り組みとして、事業参入を決定しました。

鈴与商事と日本農業は、りんご事業に留まらず、農産品の輸出、物流、農業資材供給など幅広い分野での協業を視野に、連携を強化してまいります。

■ 今後の展望

● 園地開発

ベルファームでは、青森県内に支店を開設し、青森市浪岡地区に所在する約7.5ヘクタールのりんご園地開発を進めており、2026年4月からの定植を予定しております。

● 栽培方式

日本農業が研究開発・導入する、より生産効率の高い海外式栽培方法「高密植栽培※」を採用し、反収6.5tを目指します。

● 販売開始

2025年11月より日本農業とのりんご取引を開始し、静岡・山梨・長野・愛知の4県で代理店として、ベルファームの既存取引先（トマト、アスパラ）を中心に販売を開始しています。

会社概要

日本農業について

日本農業は、日本の生産物の生産から選果・梱包、販売・輸出までを一気通貫で担い、農業の構造転換と持続可能性の両立を目指しています。

会社名：株式会社日本農業

設立：2016年11月

代表者：内藤 祥平

所在地：東京都品川区西五反田1丁目13-7 マルキビル101

資本金：1億円

事業内容：農産物の生産・加工および輸出・販売、農業経営コンサルティング等

URL：<https://nihon-agri.com>

ベルファームについて

ベルファームは、鈴与グループのアグリ事業部門として、静岡県菊川市の高台にある大規模ハウスで野菜の栽培を行っています。独自の栽培方法や先進的な技術を取り入れ、安定した品質を日々追及しています。

URL：<https://www.bell-farm.jp/>

鈴与商事について

鈴与商事株式会社は、石油・ガス・電気といったエネルギーの供給に加え、太陽光発電・蓄電池・CO₂可視化サービスなど、お客様の脱炭素化に資する商材やサービスを提供しています。また、建設資材や化学品、製造現場の省人化・自動化および事務所内の業務デジタル化を支援するソリューション提案など、総合商社として様々な商材やサービスを展開しています。

URL：<https://www.suzuyoshoji.co.jp/business.html>

※ 高密植栽培とは、樹木一本一本を細く仕立て、面積あたりの定植本数を増加させる栽培方法です。樹を一直線に並べて植えることで、作業効率の向上が図られます。日本国内で広く採用されている丸葉栽培と比較して、約3倍の収穫量が見込まれており、効率的な農作業の実現に適した手法とされています。



提供：日本農業

以上

«本件に関するお問い合わせ»
鈴与商事株式会社
経営企画部
054-273-7832
s-info@ss.suzuyoshoji.co.jp

ベルファーム株式会社
青森支店
080-7813-2099
r-amano_02@bell-farm.co.jp

株式会社日本農業
広報担当
080-7135-7158
pr@nihon-agri.com